

第 217 回 日本経営倫理学会・理念哲学研究部会の例会の議事録

副会長 宇佐神 明

日時 平成 29 年 3 月 27 日 (月) 18:00~20:00

場所 日本経営道協会・企業家ミュージアム

東京都千代田区外神田 2-2-19 丸和ビル 2 階 Tel 03-5256-7500

アクセス <http://www.csm.or.jp/WP29/wp-content/uploads/2016/08/access-map.jpg>

出席：市川覚峯、佐藤陽一、辻井清吾、古山英二、山本毅、宇佐神正明

欠席連絡：新川信洋、長塚皓右、村山元理

今後の予定の確認 毎月第 4 月曜日、(8 月以降変更有り)

4 月 24 日 (月) 18:00~20:00 『21 世紀の経営倫理』案、昨年度の反省

5 月 22 日 (月) 18:00~20:00

6 月 26 日 (月) 18:00~20:00

7 月 24 日 (月) 18:00~20:00

議題 辻井「石門心学」

予め添付書類として配布された文書「石門心学」(本メールにも添付)を読み上げる形で約一時間報告があり、それを受けて質疑・意見の交換がなされた。主なものは以下の通り。

1. (心学の浮上) 確認すべきこととして、梅岩が位置づけられたのは 1980 年代以降で、日本的経営への反省に由来した意味を考える必要があるのではないか。竹内靖男により『経済思想の巨人たち』へ収録された梅岩への指摘を見出すべきでは。バブル崩壊と日本の経営者の自信喪失を契機に梅岩は浮上。また、R.N. ベラーによる『徳川時代の宗教』は注目されて、今日に至っている。

心学とは江戸時代の道德教育だったのではないか。これは CSR そのものであった。この世界に欧米の CSR が入ったが、逆方向であったため、理解しにくいものがあつた。

2. (性格) 心学は神道を基盤にした仏教の世界に、儒学としての朱子学・陽明学を取り入れたもの。

3. (歴史的背景) 社会背景としての中世に確立された、禄高に生きる士農と貨幣経済に生きる工商(町人)の世界の相互尊重の絶妙なバランスの上に、江戸時代は形成された。南蛮文化の影響下で信長は楽市楽座で、秀吉は太閤検地で南蛮風覇権を求め統合を意図した。が、日本社会は徳川に引き継がれて、鎖国政策を通して、社会基盤を確立したのであつた。このことに注目して、日本精神史上に心学を位置づける必要があろう。これは、大宝律令における公地・公民制の鬼子として生まれた荘園制の下において貿易の中心であつた堺を中心に張り巡らされた座と市を中核として連雀商人等に支えられた経済体制が大名領国制を経て、日本全体に共有されるに至つた過程でもあつた。このような社会の上に、心学を位置づけるとき、日本の今日的課題も見えてくるのではないだろうか。このような点をめぐつての意見交換がなされ、心学を位置づけることへの要請があつた。

最後に、配布されていた宗教新聞(平成 29 年 3 月 20 日)掲載の「企業家ミュージアムがオープン特別展『高梨仁三郎』東京・外神田」をもとに、市川覚峯氏より「コークの時代を拓いた高梨仁三郎」の経営理念と業績等について報告等があつた。

以上